

平成 30 年度 第 2 回 霧島市ふるさと創生有識者会議

開催日時	平成 30 年 12 月 18 日 (火) 10:00～11:30		
開催場所	国分シビックセンター行政庁舎棟 別館 4 階 大会議室		
出席者	有識者	山尾 和廣 委員長、藤山 光隆 委員、岩元 保代 委員、福園 ゆかり 委員、吉松 康雄 委員、重久 健 委員、小川 修 委員、大竹 孝明 委員、外山 浩己 委員、高山 美智子 委員、鶴ヶ野 未央 委員、有村 弥生 委員、鮫島 沙綾香 委員、福原 平 委員 (全 15 委員中 14 人が出席)	
	霧島市	総務課：中村 主幹兼総務管理 G 長 地域政策課：貴島 主幹兼中山間地域活性化 G 長 市民活動推進課：住吉 市民環境政策 G 長 保健福祉政策課：種子島 主幹兼保健福祉政策 G 長 健康増進課：中村 保健予防 G 長 子育て支援課：市来 主幹兼子ども・子育て G 長、富田 主幹兼保育・幼稚園 G 長 農政畜産課：寶徳 課長補佐兼政策 G 長 林務水産課：落水田 林務水産 G 長 商工振興課：梶 主幹兼商工観光政策 G 長、春口 主任主事 建設政策課：笛田 主幹兼建設政策 G 長 教育総務課：新門 主幹兼教育政策 G 長 水道管理課：川畑 主幹兼水道政策 G 長	
	事務局	満留 企画部長、永山 企画政策課長、野崎 企画政策課長補佐兼行革推進 G 長、森山 主幹兼企画政策 G 長、西村 企画政策 G 主査	
公開・一部非公開又は非公開の別	公開	傍聴人数	0 人
<p>会次第</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員長あいさつ 3 委員の紹介・あいさつ 4 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成 29 年度末実績における霧島市ふるさと創生総合戦略の取組状況について 資料 1～3 (2) 霧島市ふるさと創生総合戦略の改訂について資料 1 5 報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) (仮称) 第二次霧島市ふるさと創生総合戦略の策定等について資料 1 6 その他 7 閉会 			

議事等の概要

議事

Ⓔ：委員 Ⓕ：事務局

(1) 平成 29 年度末実績における霧島市ふるさと創生総合戦略の取組状況について

→ 事務局から資料 1～3 に基づき説明。委員からの主な質疑、助言・提言等は次のとおり。

- Ⓔ 人口ビジョンにおいて、目標値と社人研の推計人口に差があるが、13 万人という目標は見直す必要はないか。
- Ⓔ 人口目標の達成は厳しいのではないか。また、2060 年の合計特殊出生率が 2.1 という目標も下方修正が必要ではないか。
- Ⓔ KPI の現状について、若者の地元就職率が大学卒は 9.7% と、10% に満たないにもかかわらず進捗状況は順調であったり、合計特殊出生率が平成 28 年から平成 29 年にかけて明らかに減少しているが、横ばいとなっていたりする。KPI の評価は適切か。
- Ⓔ 人口目標 13 万人の根拠を示して欲しい。
- Ⓕ 人口目標の根拠としては、人口減少抑制に向けた 5 つの取組について継続的に取り組むことにより、2060 年に人口 129,929 人を目指すものである。計算方法については、霧島市ふるさと創生人口ビジョンに掲載している。
また、総合戦略は来年度が最終年度であり、次期総合戦略を策定する上で、人口 13 万人の取扱いについて協議を進めたい。
- Ⓔ 人口目標の修正は簡単なことではないと思うが、目標と現実の差が広がると、市の施策の中で矛盾が生じるのではないか。
- Ⓔ 学生の就職率について高専では、来年就職予定者のうち 19.4% が県内就職している（霧島市外含む）。
- Ⓔ 第一工業大学では、昨年度の県内就職は 30% 程度であるが、霧島市内就職は 5% と、大きく差が開いている。就職先が増加すれば県外からの学生の定着も期待できる。

㊦ 様々な施策の取組を行っているが、社人研推計よりも人口減少が進んでいることは問題である。これまでの施策における効果を検証する上では、評価方法などの見直しは必要であると思う。また、鹿児島県全体の推移との比較や、県内の自治体で人口が増加しているところはないのか、あればどのような施策を行っているのか等の調査は一つの方法であると考えます。

霧島市の人口減少は2000年頃から始まっていると思うが、それ以前は微増していた時期もあるはずなので、その時の要因を明らかにすることで、これからの施策の方針に生かすことができるのではないかと。

㊦ 鹿児島県全体の人口も減少しており、県としてもかごしま未来創造ビジョンを策定した。始良市が人口は増加しているようで、鹿児島市と霧島市からの転入が多いようである。

㊦ 国分・隼人は人口が増加しているように感じる。人口は減少しているが、国分・隼人の待機児童は減っていない等、霧島市の中でも山間部との差がある。霧島市は魅力的なまちだが、市外の人に向けたPRができていないように感じる。市は、新しいものを柔軟に取り入れられるような体制を築いて欲しい。

㊦ 霧島地区では約2年間、有効求人倍率が1を超えていて、人手不足が続いているが、職種や地域によって状況は異なるため、それぞれに応じた対策が必要なのではないかと。

㊦ 霧島市は住みやすく、魅力あるまちではあるが、まとまりがないように感じる。PRする上では、企業と市と住民が連携することで、少なくとも交流人口は増やすことができると考える。市は、もっと住民を巻き込んでPR活動を行って欲しい。

㊦ 各施策を見ると、目標を達成し成果が出ている事業もある。事業実施に対しては、各部署間の連携を図ることにより大きな成果が出るのではないかと。

㊦ 個々で活動している住民に対して、市から歩み寄り、連携を図っていただきたいが、市ではそのような取組を総合的に把握するような仕組みはあるのか。

㊦ それぞれの地域活動の全てを把握している部署はないと思われるが、事業を実施する中で、関連する部署や住民団体との連携については、それぞれの職員が意識している。しかし、そのことについて市民に伝わっていないのは市の努力不足であるため、市からそれぞれの地域活動へ働きかけを行いたい。

今年度策定した第二次霧島市総合計画においては、行政、市民、事業者とそれぞれの役割を示している。これは市民の意見も踏まえ策定した計画であり、これから協力して進めていきたい。また、総合戦略においても、産学官金労が協力して策定したものであるため、行政としても積極的に連携を図りたい。

(2) 霧島市ふるさと創生総合戦略の改訂について

→ 事務局から資料1及び資料2に基づき説明。委員からの主な助言・質問等は次のとおり。

- Ⓔ 国分・隼人以外の周辺部の人口減少対策を重点的に取り組んでもらいたい。
- Ⓕ 人口が増加している始良市では、中山間部に市営住宅を建設し、移住者を受け入れ、子どもがいれば料金を減額するなどの取組を行い、効果があると聞いている。
- Ⓖ 働き手が減少していく中で、企業の誘致は今までのとおり行うのか。また、工業団地のエリアが確保できるのか等を踏まえると、雇用者数1,800人の目標は適切なのか。
- Ⓗ 人材不足については、引き続き学生就職支援プロジェクト等の取組を通して人材確保に努める。また、外国人技能実習生関係の動きも注視しながら進めたい。

報告 Ⓔ：委員 Ⓗ：事務局

(1) (仮称) 第二次霧島市ふるさと創生総合戦略の策定等について

→ 事務局から資料1に基づき説明。

その他

- Ⓔ 合計特殊出生率の低下や、女性の人数低下等への対策は今後の検討課題であり、子育て環境をしやすい環境づくりや女性が働きやすい環境づくりも大切になってくる。課題の整理をして、総合戦略の策定に生かしていただきたい。
- Ⓔ 現在の総合戦略策定時に、骨子の作成段階までは関わったが、完成されたものを見ると、霧島らしさが感じられなかった。それぞれの課題を本質的に洗い出し、施策に結び付けていただきたい。合計特殊出生率を高めるために必要な

のは子育てへの支援や、女性の活躍推進、婚活支援等の土台作りであるように感じている。

会議資料	会次第 資料1 霧島市ふるさと創生有識者会議 資料 資料2 総合戦略の具体的施策ごとのKPIの現状について 資料3 霧島市人口推計データ等 参考資料 「霧島市ふるさと創生総合戦略」の推進に係る現状と課題等に関する整理表
------	---